躍 いきいき狭山人（びと）

夢をかたちにするため 不自由の中にある自由を見つけるため 自分にしかできないことをやりとげたい

町田 敦志さん（入間川在住）

下段の写真。皆さんはどうやって運転する乗り物か想像がつきますか。これは、足が不自由な方でも乗りやすいようにデザインされた自転車で、2011年度のグッドデザイン賞を受賞した「トリニティドライブ」という名前の、手でペダルをこぐハンドサイクルです。

この自転車をデザインしたのが、市内在住の自転車ライター・町田敦志さんです。

町田さんは、中学生のころから自転車に興味を持ち、マウンテンバイクを買ってからは、どこへ行くにも自転車で出掛けました。「街の騒々しさが苦手だった私ですが、自転車だと、風を切って意のままにどこにでもいける。そこに大きな魅力を感じました」と話す町田さんは、年を重ねるごとに自転車好きが高じて、自転車ロードレースの最高峰といわれるツール・ド・フランスの全行程を、自分の自転車で追いかけるまでになります。そして、就いた職業が自転車ライター。町田さんにとって、まさに天職でした。

しかし、平成19年2月のこと。町田さんは、自転車で立ち木に衝突する事故に遭い、首から下が動かない障害を負ってしまいます。懸命なリハビリの結果、腕が動かせるようになったものの、力は事故前には程遠い状態でした。「事故に遭い、自転車への情熱が冷めるかと思いましたが、何気なく自転車雑誌を眺めているうちに『もう一度大好きな自転車に乗りたい。風を感じて走りたい』という思いが変わらないことに気づきました」と振り返る町田さん。そこで、足が不自由でも乗れる自転車を探しましたが、あるのは車いすに装着するタイプや競技用の製品で、自分が求めていたものはありません。それでも「もう一度自転車に乗りたい」という情熱をあきらめずにたどり着いたのが「自分でハンドサイクルを作る」ことでした。

協力してくれる仲間にも恵まれ、1年かけて完成したのがこのトリニティドライブです。試乗してまず感じたのは「夢にまで見た自転車の世界に帰ってくることができた。もう一度サドルの上に乗ることができた」こと。夢をかなえてくれたトリニティドライブは「私にとってかけがえのないものになりました。壁を乗り越えるのが無理だからとあきらめるのではなく〝無理はするものです〟」と力強く話してくれます。

自転車に乗り続けたいという夢をかなえた町田さん。でも、ここがゴールではありません。次の夢は「自転車のマラソンであるホノルルセンチュリーライドのハンドサイクル部門に出場すること」。さらに「ユーザー目線で車いすを作りたい」と目を輝かせます。「楽（たの）しいと生きていくことが楽（らく）になる」と常に前を向き、新たな目標を持って行動する町田さんの、今後のさらなる活躍が期待されます。

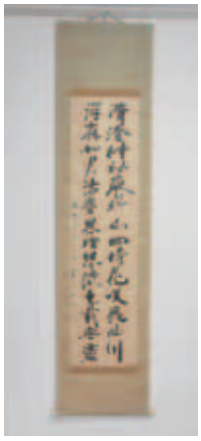
なお、トリニティドライブの実車は、11月28日(月)から12月2日(金)まで、市役所1階エントランスホールで開催するパネル展示会「あなたといっしょに…夢をかたちに」で、ご覧いただけます。

私の宝物 …

父が残してくれた自筆の掛け軸

内山　倫さん
（つつじ野在住）

昭和48年、父は亡くなる直前に、自筆の掛け軸を7人の兄弟それぞれに残しました。この書は、故郷信州の自然と人の世を想い、書き表したものです。「清く澄んだ蓼科山は四季折々の表情を見せ、その麓を流れる鹿曲川は豊かな自然をなみなみと湛える」、「人の世は月のもとに永久に流れ、尽きることのない理想を追い求める」という意味があると教えられました。以来、この言葉を父からの最後の教えと思い、今でも、迷いや悩みがあるときはこの掛け軸を見つめて、結論を導く道標としています。



意味深い言葉を自分なりに解釈しています

現在、故郷の実家は兄が継ぎ、私は狭山で暮らしていますが、年に数回は故郷を訪れ、澄んだ空気と郷里の水に触れながら、兄弟で在りし日の父の思い出話に花を咲かせています。

次回は、狭山台にお住いの方を紹介します。

いきいき自治会　柏原第二区自治会

40年の長きにわたり地域の行事などに協力をいただいている民踊会の皆さん

私たちの自治会は、市の北端に位置し、智光山公園に隣接する静かで緑豊かな田園に囲まれた地区にあります。

主な自治会事業は、初夏のクリーン作戦に始まり、納涼夏祭り、敬老会、そして柏原地区の体育祭への参加と続きます。近年は、老若男女の幅広い参加があり、活発な活動が展開されて大変な盛り上がりを見せています。今年の納涼祭も多くの方の参加を得て、盛大に開催しました。また、民踊会40余年の歴史に対し、自治会で感謝の意を込めて、感謝状を贈りました。

これからも自治会発展のため、さらに会員のきずなを強くしていきます。

姉妹・友好都市 ぐるぐる見てある記

三譚印月の石灯籠

中華人民共和国杭州市

杭州市の西湖十景の一つが、湖に浮かぶ島「三譚印月」です。

島の中にも湖があることで知られていますが、ここをさらに有名にしているのが、島の南の湖面に立つ3本の石灯籠です。中秋の名月には火が灯され、月の光と灯籠の光で一面が金色となる西湖に、国内外から観光客が訪れます。その美しさは、中国を代表する景観として、一元札の裏面に使われるほどです。これら杭州市の誇る西湖文化景観は、本年6月、ユネスコ世界文化遺産に登録されました。

狭山の史跡

公式モバイルサイトで市内の史跡を巡るコースを多数紹介しています。ぜひご覧ください。

青柳釈迦堂

所在地　青柳974番地の2

青柳釈迦堂には、豊臣秀次に仕え、延宝6年（1678）に亡くなった利白の墓石があります。

安永5年（1776）、釈迦如来が彫られたこの墓石にお参りして、願いがかなった女性のことが知られると、訪れる人が絶えなくなり、お堂が建てられてからは、ますます信者でにぎわったそうです。

明治のころは、乳の出ない人が信仰すれば効果があると人々がお参りに来て、縁日には見世物小屋まで出るほどだったと伝えられています。